

いかだの組み立て方の流れ

1 活動の流れ

リヤカーに積みます。

1 艇につき、コンパネ 2 枚、竹 8 本、チューブ 4 本、オール 4 本を準備します。(車庫の中から)

必ずライフジャケットを着用します

タイヤチューブとオールは持って移動します。

いかだ 1 艇分の資材を上図のように置き、組み立ての準備をします。

3 m ひもで竹と竹を結びます。

全部で 16箇所結びます。竹と竹の間隔は、コンパネの穴の位置におよそ合わせます。

タイヤチューブを 4 つ上の図のように置きます。

2 m ひもを使ってタイヤチューブと竹を結びます。

1 つのチューブにつき 4 箇所、全部で 16箇所結びます。

1 . 5 m ひもを使ってコンパネを 2 枚つなげます。

立ててつなげるとやりやすいです。

竹とチューブをつなげたいかだをひっくり返します。重くなっているのでグループのみんなで力を合わせて行います。



その上に穴の位置と竹の位置が合うようにコンパネを置きます。(多少ずれててもよい)



外側 1 2 箇所結びます



コンパネと竹を 1 . 5 m ひもを使って結びます。



ひものやりとり



コンパネを立てて、1 . 5 m ひもで中央付近の 4 箇所を結びます。



これでいかだの完成です。



沖に向かっていかだの横を持って海に運びます。波に押されたりあおられたりするためです。



遊泳区域内で安全に留意して活動します。



ライフジャケットを水洗いして車庫の中のロープにかけて乾かします。



コンパネや竹、チューブ、オールも水洗いして砂を落とします。



コンパネ、オールは乾かしてから元の場所に帰します。



竹は 4 本束ねます

2 活動の留意点

- ・ ひもは、各団体が用意します。(3 m... 1 6 本、2 m... 1 6 本、1 . 5 m... 2 0 本)
- ・ 他の遊泳者のじゃまにならないように活動場所は、遊泳区域と禁止区域の境界付近 (遊泳区域側) を原則とします。
- ・ いかだ 1 艇に一人の大人がつき、監視をします。
- ・ いかだの解体は、砂浜あるいは松林の中で行います。はさみで切っても構いません。